

文化遺産の活用を探る 世界遺産連絡調整会議

平泉の文化遺産の活用に向けた一関市、奥州市、平泉町の各首長と県南広域振興局長との第2回連絡調整会議が2月25日、平泉郷土館で開かれました。

浅井東兵衛一関市長、伊藤正次奥州市収入役、千葉茂平泉町副町長、酒井俊巳広域振興局長が出席。滞在型観光ルートの企画と売り込み、車両の平泉ナンバー導入検討、JR東日本など関係企業への要望活動、緊急時の対応などについて協議しました。

会議は月1回のペースで開かれ、連携課題について意見・情報交換を重ねます。



火の用心の意識を引き継ぐ 長島少年消防クラブ退団式

長島小全校児童で組織する長島少年消防クラブの19年度退団式が2月20日、同校で行われました。

旧団長・石川勝巳さん(6年)から新団長・眞籠大輝さん(5年)への団旗の引き継ぎ、盛大な退団記念演奏などを通して、卒業を控えた6年生20人が、防火の誓い新たにクラブを巣立ちました。



練習の成果披露 舞台部門発表会

町芸術文化協会(浅利和昭会長)の舞台部門発表会が2月2日、平泉小学校体育館で開かれました。

ステージでは、舞踊や民謡などに取り組んでいる13団体約100人が、日ごろの練習の成果を披露。踊り、民謡、朗詠、器楽など多数の演目が、華やかに繰り広げられました。



町の明日考える 女性の集い開催

平泉女性の会(升沢博子会長)が主催する「ひらいずみ女性の集い」が2月17日、平泉郷土館で開かれました。

町男女共同参画推進活動事業の一環として開催。女性団体会員をはじめとする約100人が参加しました。

集いでは、高橋町長と女性団体代表者との対談、尚絅学院女子短期大学の岩倉政城教授による「五感ではぐくむ子どもの心」と題した講演、エアロビ教室が行われました。



梅株有木 株三取工久株有株 大南川壺才 岩三南株株 矢南 梅株有木

威勢良く豆まき 中尊寺で節分会

中尊寺で2月3日、大相撲高砂部屋の関取、朝赤龍関を招いて、恒例の「節分会」が行われました。

豆まきには朝赤龍関のほか、祓に身を包んだ厄年の男女や年男・年女など約100人が参加。「天に花咲け、地に実なれ」の口上に続き「福は内、鬼は外」の勇ましい掛け声とともに豆がまかれると、会場に詰めかけた町民や観光客は競って招福の豆を拾い集めていました。また町内の幼稚園、保育所の子どもたちによる豆まきや抽選会も行われ、会場にはにぎやかな歓声が響き渡りました。

大節分会 中尊寺



理解と関心を深める 平泉文化フォーラム

県教委などが主催する第8回平泉文化フォーラムが2月2日、奥州市文化会館で開かれました。基調講演や平泉文化に関する研究発表、平泉遺跡群の発掘調査報告などが行われ、約500人の来場者は、平泉文化に対する理解と関心を深めました。

基調講演では、東京大学大学院の村井章介教授が「境界論からみた外の浜と平泉」と題して講演。「平泉は、中央政権の力が及ぶ地と奥六郡の境界だからこそ、奥州の中央になり得た」との持論を展開しながら、平泉文化の歴史を解説しました。



魅力あるまちづくりを 第9回世界遺産講演会

第9回世界遺産講演会が2月23日、ホテル武蔵坊で開かれました。大分県議で、国土交通省から「観光カリスマ」の認定を受けている首藤勝次さんが「国際的視野に立った個性的な地域戦略」と題して講演しました。

町内外から世界遺産に関心を持つ約120人が参加。首藤さんは、大分県の長湯温泉をドイツの温泉地との交流で急成長させた経験を踏まえ「まず住民が地域の歴史や文化の価値を認識することが大事」と訴えました。